

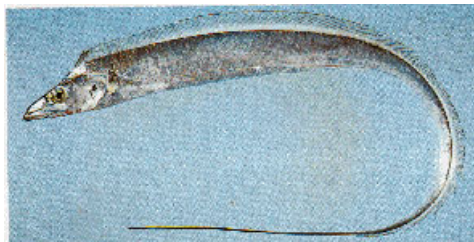
平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 タチウオ

学名 *Trichiurus japonicus*

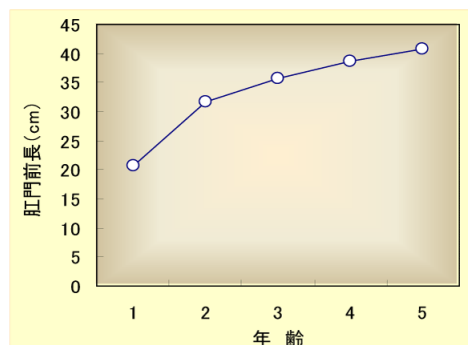
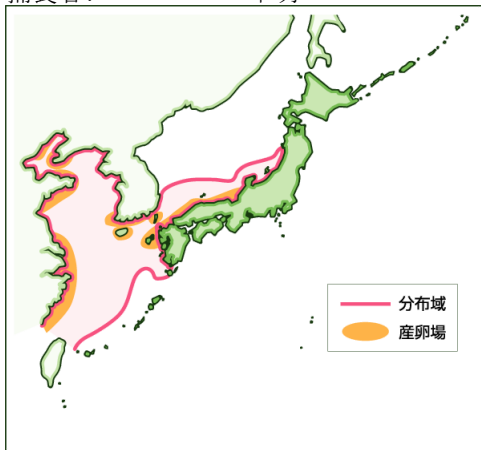
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8歳
成熟開始年齢: 1歳(一部)、3歳(100%)
産卵期・産卵場: 主な産卵場は中国沿岸域であるが、我が国沿岸域でも産卵する、産卵期は長く春～秋季、盛期は春季と秋季に別れるらしい
索餌期・索餌場: 東シナ海での越冬場は東シナ海中・南部、日本海沿岸にも分布
食性: 主な餌生物は小型個体はアミやオキアミ等の小型甲殻類、大型個体(肛門前長250mm程度以上)は魚類
捕食者: 不明

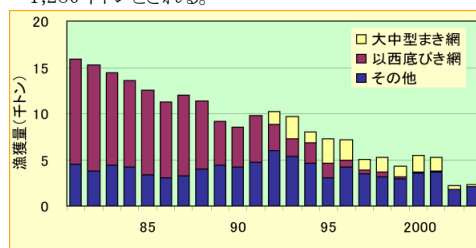


漁業の特徴

タチウオは各地で釣り、まき網、底びき網、定置網等で漁獲される。かつては東シナ海における以西底びき網の主要対象種の1つであったが、近年は漁獲量が大きく減少し、代わって釣りやまき網が主に漁獲している。近年、韓国漁船による我が国200海里内での漁獲量が多い。

漁獲の動向

我が国の本系群の漁獲量は1980年代・90年代に減少を続け、2003年の漁獲量は約2千トンであった。韓国はタチウオを大量に漁獲しているが、漁獲量は1983年の153千トンから2002年の60千トンまで減少した。2003年の我が国200海里内における韓国の漁獲量は、約2千トンである。中国は近年1,000千トン以上の漁獲を記録しており、2002年は1,280千トンとされる。



資源評価法

沖合域で操業する底びき網漁業と沿岸域で操業する釣りなどの漁業のCPUEの推移を見ることで資源水準と動向を判断した。

資源状態

以西底びき網のCPUE(一網当たり漁獲量)は、変動しながらも1987年以降減少傾向が続いている。沖合底びき網のCPUEは、1980年代・90年代には変動を繰り返し、1970年代前半までの水準よりかなり低くなっている。大・中型まき網の漁獲量は比較的安定しているが2002年には減少した。これらを除いた沿岸漁業による漁獲量は1992年以降減少傾向を示している。以西底びき網による漁獲物の銘柄組成は、1980年代までに比べて小型の銘柄が占める割合が大きくなっている。中国でも過度の漁獲圧による漁獲物の小型化が報告されている。韓国の研究によれば、韓国海域のタチウオ資源には高い漁獲圧がかかっており、資源は1985年以降(1997年まで)減少を続けている。これらのことから、資源量は強い漁獲圧のために1980年代後半から減少を続け、現在では低い水準にあると考えられる。



管理方策

本系群に対する漁獲圧は過剰であると考えられるので、削減すべきである。漁獲圧の多くは我が国200海里外における外国の漁業によるものであり、問題の根本的解決には東シナ海全域での関係国間の協力が不可欠である。一方、我が国200海里内に限定すれば、我が国水域内の資源の回復の促進には、我が国水域内に来遊した資源等の適切な管理を通じ、我が国水域内での産卵親魚量を増加させる必要がある。以西底びき網のCPUE、韓国漁獲量、沿岸漁業による漁獲量の減少傾向から、2003年の漁獲量の0.7倍をABClimitとし、その0.8倍をABCtargetとした。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,000トン	0.7C2003	-	-
ABCtarget	2,400トン	0.8ABClimit	-	-

ABCは我が国200海里内における我が国及び外国漁船の漁獲に対する値

資源評価のまとめ

- 1980年代以降、長期的に見て資源は減少している
- 漁獲圧が過剰である

管理方策のまとめ

- 問題の根本的解決には東シナ海全域での関係国間の協力が不可欠
- 我が国水域内に来遊した資源等の適切な管理を通じ、我が国水域内での産卵親魚量を増加させる
- 漁獲圧の削減が必要

資源評価は毎年更新されます。